

徳山藩士の構造について —特に下級層に注目して

会員 佐伯 隆

はじめに

昭和四一年発行の『徳山市史料』は、徳山藩の寛永四年（一六二七）頃から明治二年（一八六九）までの分限帳を使用し、藩士の変遷を表としてまとめている（註①）。

分限帳の被掲載者数は時代によって増減はあるが、明治二年の時点で四二四人であり、これが徳山藩士の規模である、とまずは捉えられるであろう。天保期（一八四一

年頃）の『徳山藩御家中屋敷絵図』も復刻されており（註

②）、上級藩士が住む屋敷町を絵図で見るとそのイメージも湧いてくる。しかし、四万一〇石の藩に四二四人とい

うのは全てではないことは明かである。『御家中屋敷絵図解説』（註③）には、「四角形の屋敷町は関門を設けて出

入りを検問した。そして、細工人、足軽などの軽輩の屋敷は関門外に置かれた。」と、いわゆる下級層の存在に触れている。『徳山市史』は、「参考までに明治四年（一八七一）現在の藩士の人員を分限帳によってあげてみると、士族四四六人、足軽以下四九八人となっている。」とその具体的な数を示しているが（註④）、それ以上の記載はない。

本稿では、廃藩前後の史料を元に、これまであまり注目されなかった徳山藩の足軽、中間層や陪臣の存在を紹介し、徳山藩の実態を研究するための一助となる情報を提供することを目的とする。

分限帳からみた家臣団の構成

山口県文書館所蔵の徳山毛利家文庫には、区分「家來給禄帳」として寛政五年（一七九三）、文政九年（一八二六）、同一二年（一八二九）、及び幕末から明治初年の計六二点がある。このうち、「異本天保三壬辰三月徳山藩御家頼分限帳」は子爵毛利元靖氏所蔵の写しであり、活字本として復刻もされている（註③）。また多賀社文書にも、文化八年（一八一二）の校割帳（註⑤）がある。

『徳山市史（註⑥）』には「家老以下の士分が一五階級、卒族が一八階級に分かれていた」とある。天保三年の分限帳でみると、六人の家老（うち、一人は身柄一代）、出頭（用人）、中座、留守居に続き、馬廻格の家來で編制された三組がある。次に中小姓と呼ばれる士によって編制された三組がある。次に四座と呼ばれる茶道、祐筆、膳部、別当の諸士、さらに六四人の徒（かち）、そして、陣僧、持弓、蔵本附の諸士が見える。続く蔵本支配細工人、武具方、作事方から町奉行支配の検断頭までの三四人について『徳山市史料』は準士班と記している（註⑦）。

ここで、検断という罪人の斬首を司る者達について、検断頭以外は氏名が記されておらず、「検断之者六人」とある。以下、一五人で編制された足軽六組、および五〇人で編制された中間三組、さらに各支配に所属する者について、大半は名前が書かれておらず、人数だけになっている。最終的にこの分限帳の被掲載者数は九〇〇人弱となるが（註⑧）、これは前述した明治四年の「士族四四六人、足軽以下四九八人」の合計に近い数字ではある。

明治三年「士族人員録」

徳山毛利家文庫に「士族人員録」という明治三年の史料がある。徳山藩の家來について、その当主と年齢、および家族を調査したもので、階級ごとの冊子となっている。家來分限帳二三〇三一がいわゆる士席班のもので、例として写真1に家老の鳥羽槌之丞の家の記載を示した。一六才の当主と妹の二人家族である。一方、家來分限帳三三〇四三は御船手組、河合組上等・下等、岩崎幾太郎組上等・下等と階級ごとにまとめられたもので、最

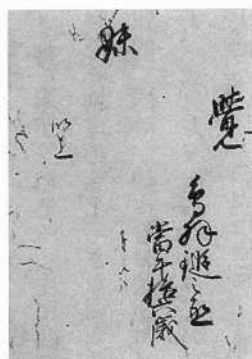


写真1 上士其外人員録
「覚 鳥羽槌之丞
當午拾六歳
妹 以上」

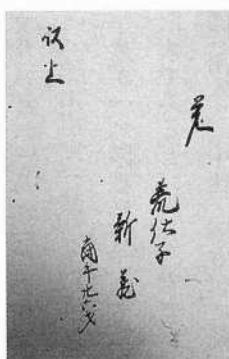


写真2 士族人員録
「覚 荒仕子
新蔵
當午廿六才
以上」

わゆる徳山藩陪臣の記述がある。これによれば、六名の
家老に計四四人の家来がいたことが分かる(表1)。

明治四、五年「旧徳山士族分限帳」

山口県庁文書に「旧徳山士族分限帳」(註⑨)という三
分冊の史料がある。この中には二つの書式が混在してい

終冊が荒仕子
(あらしこ)
である。写真
2は荒仕子の
新蔵の記載で
ある。家来分
限帳三二は
「準士人員録
附上士家来」
とあり、興味
深いことに家
老の家来、い

る。一つは家禄(註
⑩)に続き、当主
名を明治四年の年
齢と共に記し、さ
らに家族(男性の
み)を列記してい
る。もう一つは、
明治五年における
同様の記載があ
り、次頁には居住
地も書かれている
(写真3)。これは
前者が土席班で、
後者が準土班と卒
席班の者である。
徳山藩は廃藩置県
直前の明治四年七
月に廃藩し、山口

表1 徳山藩家老の家来(明治2年)

粟屋家人 家来	井本好左衛門 兼田一衛門 山下松衛門 末光玖兵衛 三吉與兵衛 杉脩治 鈴木研齋 田中澄之丞 戸倉亀吉 末次文吉 卒 浅岡吉 治郎 卒 有吉利吉
奈古屋誠之進 家来	村瀬一郎左衛門 田中耕左衛門 磯部良右衛門 賀川文友 古谷蘓 兵衛 清木権左衛門 長嶺龍溪 磯部亀之進
福岡兵馬 家来	柳田文左衛門 長西銀衛門 戸倉精司 石川瀬兵衛 藤林喜和衛門 松本清蔵 林直吉 清木幸吉 井上謙吉 石津健司跡
鳥羽槌之丞 家来	富樫範三郎 西村瑕治 有馬直吉 久村喜左衛門 森脇金助
粟屋瑄太郎 家来	村山愛司 中村秀蔵 山本佐右衛門 中村熊二郎 坂英之進 坂周 吉
毛利彰一郎 家来	伊藤郡太 幡部俊造 岸田要三郎

藩と合併した（事前廃藩）が、山口藩では同三月に士卒合併の方針が出された。このように制度が流動的な時期に事務が遂行され、最終的には士卒の区別をしない形で合綴されたのであろう。この中には改正米が一石八斗（一人扶持）の者が相当数いる。これは一四四人いた最下層の荒仕子までが士族に編入したことを示している（註⑫）。尚、表1に示した陪臣についても、藩士と同様の扱いがされている。

巻末の表2は明治五年表記がされている六五六人を居住地別に示したものである。この内、約七割に当たる四五九人は徳山村に住んでいるが、これはもつともなことである。むしろ注目すべきは徳山村以外に住む三割である。このような、いわゆる在郷者については個々に理由があるかもしれないが、一方、藩の政策上、地方に配置されたこともありえよう。同様に、この史料に居住地の記載が無い土席班でも、徳山村以外に住んだ者がいたであろう（註⑬）。このことは、徳山藩の地方統治を知る上で、今後検討すべき事項である。

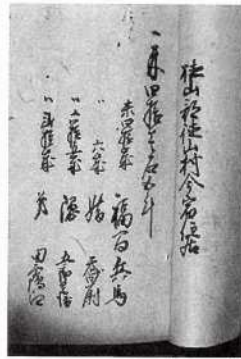


写真3 徳山士族分限帳

右写真の左側は家禄米1石8斗の松崎嘉七の記載で、申年（明治5年）の年齢が書かれており、次頁（左写真）の右側には「今宿住居」とある。左写真の左側は家禄米41石5斗の福間兵馬の記載で、未年（明治4年）の年齢が書かれている。次頁の住所の記載はない。

明治一三年「金禄券根帳」

明治政府によつて士卒に支給されてきた家禄米は、金禄券といういわゆる債券の支給をもつて明治八年に打ち切られた。「金禄券根帳」は県庁の公債掛が作成した金禄券所有者に関する記録である（註⑭）。ここには元徳山藩士だけではなく、元萩藩士や元支藩の藩士、さらに元陪臣や他県からの転入者も含まれており、膨大な史料であ

る。一方で、帰農や廃家などの事情で「金禄券根帳」に記載されない元武士も多くなってくる。さらに最も厄介なのは、家督相続や住居の移転などに加え、多くの者が改名しているという事実である。しかし、この史料には明治一三年時点とはいえ、居住地の記載があるので、土席班のうち徳山村に住まなかつた者の情報が収集できる。徳山藩士に関わらず、この史料の分析を現在行っており、いずれ別稿で報告したい。

おわりに

本稿では徳山藩の家来に関する廃藩前後の史料を紹介し、そこから分かる家臣団の構造の一面を考察するにとどまった。今後、より詳しい分析を行い、家臣団の構成からみた徳山藩の特徴を見ていきたい。

註

①『下巻』五二〇八二頁（徳山市史料編纂委員会、徳山市発行、昭和四一年）。「寛永四年頃は御当家古分限帳

（徳山市立図書館蔵）宝永四年は逸史所蔵の御家頼分限帳（徳山毛利家文庫所蔵）文化九年は御家頼分限帳（徳山市立図書館蔵）万延元年頃は御家頼分限帳（徳山毛利文庫所蔵）明治二年十二月は御家頼分限帳および大令録（同上）による。」とある。

② マツノ書店発行、昭和四九年。

③『徳山藩御家来分限帳 附 御家中屋敷絵図解説』（マツノ書店発行、昭和四九年）。

④「徳山毛利氏記録類纂」（山口県史編纂所所蔵）には、家臣人員として寛永五年、貞享元年、宝暦八年、天明三年、明治四年の土族と足軽以下其並之者の人数を記載しており、これを引用したものであろう。

⑤「徳山御家中御家頼分限帳」（多賀社文書、三〇五、山口県文書館蔵）。多賀大宮司が写したものである。

⑥『上巻』三八四～三九八頁、徳山市史編纂委員会。

⑦ 藩政時代の階級をまとめた表中に「土席班」「準土班」「卒席班」と書かれているが、このような班分けが藩政時代から行われていたかは検討を要す。

⑧ 社家と御心附を受け取っていた者を除いた数である。

⑨ 県庁戦前A、士族、七九〇八一。徳山毛利家文庫も同名の史料がある（家来給禄帳、四四〇四六）が、これは県庁文書の写しである。

⑩ 藩政時代の禄高に応じて、明治政府より全国の華士族に支給された米額（改正米）。

⑪ 家禄が一石八斗であるのは荒仕子のみではない。

⑬ この史料には徳山藩領であった大井村や奈古村の在住者はいないが、これは事務処理の管轄外であったことも考えられ、両村に徳山藩士が全くいなかったと結論づけられるものではない。

⑭ 県庁戦前A、士族、一六三〇二二六、山口県文書館蔵。徳山毛利家文庫、家来分限帳、四八〇四九にも同名の史料があるが、その冒頭に、「金禄券根帳 自第壹号至第五十号者之中係第七大区八小区者抜粹」とあるように、七大区八小区（徳山村）に居住していた者だけを筆写したものである。

表2 「旧徳山士族分限帳」明治五年書式の掲載者

() 内は家禄米で単位は石である。
表のセル内の氏名はイロハ順である。

馬嶋	鳴海與市(1.8) 宮本峰吉(1.8)
山田村	板村精治(1.8) 金子太郎吉(1.8) 吉野一郎(1.8) 为国瀧蔵(1.8) 为国要之進(1.8) 为国源九郎(1.8) 三吉国吉(1.8) 瀬来徳次郎(3.6) 瀬来駒之丞(1.8)
生野屋村	田村信次郎(1.8) 内山友之助(1.8) 牧野秀太郎(1.8) 藤尾佐一(1.8) 藤尾太吉(1.8) 近藤孝太郎(1.8) 近藤勝蔵(1.8) 廣中秀熊(1.8)
河内村	原田良太郎(1.8) 原田貞之進(1.8) 藤川寅吉(3.6) 藤井環(1.8) 有田幸治(1.8) 清木静雄(1.8)
久保市	相本柳左衛門(1.8)
東豊井村	栗生三郎(3.6) 金沢四郎(1.8) 武居勝馬(1.8)
下松町	磯部松太郎(1.8) 河野茂太郎(1.8) 田中清蔵(1.8) 中川春三郎(1.8) 久保友之丞(4.7) 矢間五郎(1.8) 小倉新吉(1.8)
西豊井村	吉岡要蔵(1.8) 夏目国蔵(1.8) 中村幸吉(1.8) 相本亀之進(1.8) 森田常吉(1.8)
栗屋村	岩本泉左衛門(4.36) 温品清九郎(3.35) 温品忠之進(1.8) 高橋幾蔵(1.8) 深見弥作(4.36) 藤井輔七(1.8) 深見岸右衛門(1.8) 小林利作(1.8)

村

大嶋村			藤本栄之輔(1.8)	
	居守		中山貫一(1.8) 長棟兵馬(1.8)	
徳山村	久米ガ後	横濱	石丸卯之助(3.35) 伊賀崎玉吉(3.35) 石丸梅治郎(3.35) 入江佐太郎(3.35) 内山金蔵(3.35) 内山文七(3.35) 藤田相次(3.35) 小林竹治郎(3.35) 塩見藤作(3.35)	
	遠石	遠石町	岩本亀之進(2.7) 岩本近之進(1.8) 石川吉兵衛(1.8) 橋本清蔵(1.8) 小林小太郎(1.8)	
	大河内		田村市右衛門(3.35) 山角鶴蔵(3.35) 廣中常右衛門(1.8)	
	一ノ井手		金子治作(3.35) 兼重文之進(1.8) 中村戈吉(1.8) 野村多一(3.35) 野村喜次郎(3.35) 藤井銀兵衛(4.36) 藤井友助(4.36) 藤井仲蔵(4.36) 福谷幸右衛門(3.35) 福谷音吉(3.35) 小川善内(3.35)	
	後街道	風呂ヶ迫		河村岩蔵(3.35) 川口四郎作(3.35) 田畑米作(3.35) 山本與右衛門(3.35) 福谷代右衛門(4.36) 藤谷臺作(4.36) 藤井栄吉(3.35) 藤井龍吉(3.35) 水津文蔵(3.35) 水津與助(3.35) 水津義作(3.35) 水津與兵衛(1.8)
		泉原		高橋恵左衛門(1.8) 内山杣七(4.36) 福永栄左衛門(3.35) 藤井美代蔵(3.35) 三牧繁左衛門(1.8) 久野富蔵(1.8)
		舞車		石田小野衛門(1.8) 津森嘉兵衛(3.35) 中村実平(3.35) 村田良右衛門(3.35) 野村梅太郎(1.8) 松本恒一(3.35) 松本竹蔵(3.35) 松本忠作(3.35) 松原左衛門(3.35) 松本秀衛門(1.8) 藤井又吉(3.35) 藤井烈蔵(1.8) 三牧又吉(3.35) 光巻十作(3.35)
	辻			石田堅作(4.36) 石丸録治(4.36) 石田熊蔵(4.36) 伊藤嶋七(4.36) 伊藤伊助(4.36) 井上市蔵(3.35) 石田栄助(3.35) 岩崎惣吉(1.8) 石井林左衛門(1.8) 半田良作(1.8) 戸倉柳右衛門(3.35) 戸倉徹兵衛(1.8) 近森遠平(4.36) 千本清作(3.35) 近森谷蔵(3.35) 近森瀧左衛門(3) 岡山兔右衛門(4.35) 岡村金作(1.8) 和田彦蔵(4.36) 和田松衛門(1.8) 河村角蔵(4.36) 河村半七(3.35) 河村文左衛門(3.35) 兼田宦蔵(1.8) 中村蔵右衛門(3.35) 中村音吉(1.8) 梅本勇兵衛(4.36) 野村宇兵衛(1.8) 倉永臺吉(1.8) 山本熊助(4.36) 山縣文右衛門(3.35) 山縣常右衛門(3.35) 山縣新一(3.35) 山本恭輔(3.35) 山縣清治(1.8) 山本林左衛門(1.8) 山本富左衛門(1.8) 松村清兵衛(1.8) 藤井藤内(4.36) 福田勝兵衛(4.36) 藤重新七(4.36) 藤重嘉蔵(4.36) 福田久米蔵(4.36) 藤井嘉吉(3.35) 福田泰助(3.35) 藤井直左衛門(3.35) 藤井利右衛門(1.8) 深松泰右衛門(1.8) 不破勝無名蔵(1.8) 明石直吉(4.36) 浅田友右衛門(3.35) 浅田善七(1.8) 佐々木笹衛門(1.8) 清永軍蔵(4.36) 清永忠左衛門(1.8) 三吉多喜内(4.36) 三吉友蔵(4.36) 三吉峯蔵(4.36) 三吉幹輔(1.8)
		河原		野間作右衛門(1.8) 山田多喜蔵(4.36) 山縣熊兵衛(1.8) 山田満作(1.8) 藤谷蔓内(4.7) 福谷矢助(3.35) 藤谷常衛門(1.8) 手嶋作蔵(1.8) 木原木右衛門(4.36) 三牧庄右衛門(3.35) 水津政造(3.35)
		町割	鐘樓堂町	
御弓町			椎木周吉(4.7)	
新町			道源要左衛門(4.7) 戸倉伴右衛門(4.36) 岡田直左衛門(4.7) 兼重栄治郎(4.36) 河本柳造(3.35) 高嶋熊吉(4.36) 高嶋佐兵衛(1.8) 浦上多熊(3.35) 松嶋景蔵(3.35) 藤井陣左衛門(4.7) 青木精一(4.36) 青木亀吉(4.36) 末廣芳蔵(3.35) 澄田嘉作(1.8)	

徳山村	土井	小沢町	河村国蔵(1.8) 室本藤兵衛(3.35) 野村又七(4.36) 山縣孫三(4.36) 山本利吉(1.8) 藤井平右衛門(3.35) 三宅竹次郎(3.35)
		吉屋町	戸倉豊吉(4.36) 中村逸作(1.8) 山本林七(4.36) 藤井清一郎(3.35) 近藤喜三衛門(3.35) 岸田三千蔵(4.36) 宮村喜代蔵(4.36) 清水文七(1.8)
		順庵町	原新五郎(4.7) 羽山政吉(3.35) 尾上安吉(4.36) 渡辺幸作(4.36) 河村角右衛門(3.35) 吉岡次郎蔵(4.36) 高原喜介(4.7) 野村栄七(4.7) 野村金蔵(1.8) 山本泉左衛門(4.7) 松嶋東一郎(1.8) 小林小作(4.36) 三吉少作(3.35)
		夕顔町	尾上耕左衛門(4.36) 玉野国蔵(4.36) 高橋丈右衛門(3.35) 山本岩兵衛(3.35) 小林栄作(3.35) 小林彦兵衛(3.35) 荒川幸蔵(1.8) 椎木豊左衛門(3.35)
		間ノ町	伊賀崎磯衛門(4.36) 半田福蔵(3.35) 半田鶴吉(1.8) 河野蔵吉(3.35) 河野作兵衛(1.8) 山本文蔵(1.8) 松田與兵衛(1.8) 沢重松五郎(4.36) 三吉民右衛門(3.35) 清水音右衛門(1.8)
		寺町	岩崎房吉(1.8) 笈為次郎(4.36) 長野喜作(3.35) 山本修蔵(4.7)
		田町	磯村栄作(1.8) 半田五郎(1.8) 久原正之進(1.8) 明石善吉(4.36)
		角(隅)ノ河内	半田與作(3.35) 半田市五郎(1.8)
	浦石	濱田浅吉(4.36) 榎部治兵衛(3.35) 河本臺五郎(1.8) 種田喜一(3.35) 高橋治郎(1.8)	
	東町	橋本町	花田民蔵(3) 榎部孫市(4.36) 榎部保蔵(3.35) 野間弥吉(3) 国廣十衛門(3.35) 山本佐七(3.35) 山本弥吉(3.35) 山本弥五郎(1.8) 浅田種衛門(4.7)
		糺町	神田吉左衛門(3.35) 浦上三四郎(1.8) 国廣菊四郎(1.8) 藤本倉之助(1.8)
		幸町	井上幸治(3.35) 吉田佳蔵(1.8) 中川作太郎(1.8) 白木與太郎(1.8) 関戸五郎(1.8)
		下河原	岩崎嶋衛門(4.36) 原田穂助(3.35)
		濱崎町	国光久吉(4.36) 国廣郁之丞(1.8)
		東濱崎町	長弘節左衛門(4.36) 梅田波兵衛(4.36) 宮村七右衛門(4.36) 勝屋萬吉(4.36) 勝屋熊蔵(1.8)
	西町		石井泉作(3.35)
		油屋町	磯村儀一郎(3.35) 石田又造(3.35) 河村才助(4.36) 河本好次郎(4.36) 河本熊次郎(4.36) 河本卯之助(1.8) 福谷三四郎(1.8) 椎木孫一郎(1.8)
西濱崎町		伊ヶ崎傳吉(3)	
野上町		羽嶋伊右衛門(4.36) 上野弥助(3.35) 三吉虎雄(1.8)	
江田町		花田清七(1.8) 福谷宗作(4.36) 岸田米左衛門(4.7) 平田嘉市(1.8)	
西冲原		伊藤精一(1.8) 近森喜市(4.36) 兼崎寛太郎(1.8) 竹村萬吉(1.8) 内山龜次郎(4.36) 山縣三郎(1.8) 山本品蔵(1.8) 秋本仙太郎(1.8) 秋月時太郎(1.8)	

徳山村	今宿	板野佐兵衛(4.36) 板野三輪蔵(4.36) 石井福蔵(3.35) 林瀧左衛門(4.7) 花房悌作(3.35) 林権左衛門(1.8) 戸倉清蔵(4.7) 戸倉太兵衛(4.36) 戸倉満助(4.36) 徳原彦蔵(4.36) 近間弾蔵(3.35) 落合雄介(3.35) 落合嘉市(1.8) 落合友七(1.8) 渡辺信右衛門(1.8) 渡辺勇蔵(1.8) 河村勘助(4.36) 河村柳兵衛(3.35) 片山陳四郎(3.35) 河村伴吉(3.35) 金子綱蔵(3.35) 河村友吉(1.8) 河村伴左衛門(1.8) 田村誠次(4.36) 田村米蔵(3.35) 田中友左衛門(3.35) 谷野瀧助(3.35) 谷野常蔵(3.35) 田中多作(3.35) 谷野松三郎(1.8) 田東與七(1.8) 田東熊兵衛(1.8) 長西東蔵(4.36) 長野修平(4.36) 内藤多助(4.36) 長松緑衛門(3.35) 中村正郎(3.35) 長野潤平(3.35) 内藤岩吉(3.35) 長野千代蔵(1.8) 長野深右衛門(1.8) 中村弥兵衛(1.8) 梅田香平(4.36) 村川免吉(3.35) 宇賀清蔵(4.36) 宇賀軍治(4.36) 宇田弥吉(4.36) 宇賀為蔵(4.36) 宇賀東一右衛門(3.35) 宇賀宅兵衛(1.8) 野村嘉作(3.35) 野村祐左衛門(1.8) 久村藤太(3.35) 山縣幾蔵(4.7) 山本農夫蔵(4.36) 山本勇衛門(4.36) 山縣耕助(4.36) 山田米七(4.36) 山本保平(3.35) 山縣圭作(3.35) 山縣四五蔵(3.35) 山本里平(3.35) 山本綱衛門(1.8) 毎田幸兵衛(4.7) 松村鶴蔵(4.36) 松村藤造(3.35) 松村新蔵(1.8) 松嶋嘉七(1.8) 福谷基内(4.7) 福谷茂兵衛(4.36) 藤井満七(4.36) 福谷米作(4.36) 福谷四郎蔵(4.36) 福谷嘉助(4.36) 福谷祥治(4.36) 福谷信右衛門(4.36) 福谷作衛門(3.6) 福田権左衛門(3.35) 福谷善左衛門(3.35) 福永源左衛門(3.35) 藤井市六(3.35) 福永象蔵(3.35) 藤林孝七(3.35) 藤井與吉(3.35) 藤井作衛(3.35) 福谷谷衛門(3.35) 福谷仙左衛門(3.35) 藤林初左衛門(1.8) 福永岡右衛門(1.8) 福谷民衛門(1.8) 小田武兵衛(4.7) 近藤園左衛門(4.36) 小田小野作(4.36) 小田賢治(4.36) 小林亀吉(1.8) 小南十郎(1.8) 小池弥太郎(1.8) 榎宮平一(3.35) 浅田辰衛門(4.7) 浅田喜久蔵(3.35) 岸田耕衛門(4.7) 岸田九蔵(4.36) 岸田彦左衛門(3.35) 宮崎達右衛門(3.35) 三浦三千蔵(3.35) 重廣治郎作(4.7) 重廣常左衛門(4.36) 重廣音吉(4.36) 重岡藤吉(3.35) 重廣九左衛門(1.8) 重岡幸衛門(1.8) 重廣染左衛門(1.8) 重廣清左衛門(1.8) 久野道右衛門(4.36) 菅田藤吉(4.36)
	代々小路	岩崎角内(4.36) 岩崎段七(4.36) 岩崎勝蔵(4.36) 板野甚九郎(1.8) 西村米左衛門(4.7) 西村與茂助(4.7) 西村利吉(4.36) 西村岩右衛門(1.8) 道源鉄蔵(4.36) 尾上金次郎(3.35) 金子三徳右衛門(4.36) 河村清七(4.36) 兼重金助(3) 河村幾蔵(1.8) 兼重嶺左衛門(1.8) 兼重勘平(1.8) 吉岡六介(4.36) 宇賀四郎吉(3.35) 宇賀新三郎(3.35) 野村多喜蔵(3.35) 野村覚兵衛(1.8) 山本実蔵(4.36) 毎田丹左衛門(4.36) 松田剛造(4.36) 毎田保兵衛(4.36) 藤井五兵衛(4.36) 藤井清兵衛(1.8) 近藤並右衛門(4.36) 寺本実右衛門(3.35) 明石治右衛門(4.7) 清水直右衛門(4.36) 重岡寛次(4.36) 重岡治兵衛(1.8)
	岡田原	戸倉浦右衛門(3.35) 温品東吉(1.8) 渡辺十左衛門(3.35) 河村新右衛門(3.35) 安沢泉助(4.36) 安沢潤蔵(1.8) 松重亀右衛門(4.7) 福谷善次郎(3.35) 藤井勘一(3.35) 深野猪左衛門(1.8) 澄田音七(3.35)

徳山村	北山	岩崎板藏(4.36) 石井久吉(3.35) 石井米藏(1.8) 西村潤内(3.35) 西村熊衛門(3.35) 西村森兵衛(3.35) 西村来次郎(1.8) 岡嘉市(3.35) 岡喜左衛門(1.8) 河野定右衛門(4.7) 河村千賀助(4.36) 河野太郎藏(4.36) 片山作右衛門(3.35) 河村和兵衛(1.8) 武重弥左衛門(3.35) 武重一郎(3.35) 玉野琢平(3.35) 田中皆六(3.35) 中村金右衛門(3.35) 中村吉次郎(3.35) 中村浦衛門(1.8) 村田利左衛門(4.36) 内山東七(3.35) 内山松次郎(3.35) 山本銃七(4.36) 水木利藏(4.36) 水木清介(4.36) 水木良作(3.35) 水木森藏(3.35) 水木喜作(3.35) 水木市五郎(1.8) 森重彦七(4.36) 森重友右衛門(1.8) 森重奥平(1.8)
	小野	宇田猪藏(4.36) 三牧新兵衛(3.35)
瀬戸村		石津丑次郎(1.8) 石津信次郎(1.8) 石津六郎(1.8) 石津房一(1.8) 石津秀之進(1.8) 松原初次郎(1.8)
大藤谷村		大波由良衛(1.8) 崎重浪之進(1.8) 南存見(1.8)
須萬村		有吉雅之輔(1.8)
上村		戸倉太郎(3.6) 戸倉次郎(3.35) 徳原唯雄(1.8) 戸倉駒太(1.8) 竹尾亦藏(3.35) 村上市之進(1.8) 宇多陽穂(4.7) 久村勘六(4.36) 久村幸吉(4.36) 久村甚右衛門(3.35) 久村新熊(3.35) 久村道平(3.35) 安沢亀吉(3.35) 山本幸助(1.8) 三浦右衛門(4.36)
	水上	徳原佐吉(1.8)
	中山	不破本一作(1.8)
四熊村		中村秀雄(1.8) 小田幸吉(1.8) 朝日宮次郎(3.6)
下上村		渡辺晋藏(3.35) 兼田仁三郎(1.8)
富田村		中村国松(1.8) 天野照三(1.8) 椎木勘次郎(4.36)
	川崎	椎木岩吉(4.36) 椎木新右衛門(3.35) 椎木小兵衛(1.8) -
	政所	伊藤由助(1.8) 岩崎禎次郎(1.8)
	野村開作	吉村直次郎(1.8)
	古市町	石田字三郎(1.8) 橋本純作(1.8) 林章一(1.8) 竹廣耕作(2.7) 田原進(2.7) 田中幾藏(1.8) 梅田恒藏(1.8) 村井綱太郎(1.8)
	新町	井本真十郎(1.8) 加古川箴之丞(1.8) 神本豊吉(1.8) 竹中源七郎(1.8) 楠本小次郎(1.8) 松嶋唯一(1.8)
平野		高原貞吉(4.36) 松坂清右衛門(3.35)
	平野町	池田益五郎(3.6) 田中一(1.8) 中村茂十郎(3.6) 松井市之進(1.8) 藤井廉藏(1.8) 三浦小四郎(1.8) 久野初熊(1.8)
大津島		石田三寿藏(2.7) 石田弥五郎(1.8) 石田治郎三(1.8) 大津弥太郎(1.8) 河嶋精之進(1.8) 植木利三郎(1.8) 浦嶋金吾(1.8) 安達紋次郎(2.7) 安達臺助(1.8) 安達関藏(1.8) 安達角次郎(1.8) 安達儀兵衛(1.8)
福川村		原田市藏(4.36) 原田熊吉(3.35) 原田九郎(1.8) 原田傳四郎(1.8) 原田吉衛門(1.8) 片山林七(4.36) 片山竹藏(4.36) 加藤佐一郎(1.8) 片山和吉(1.8) 田中伊左衛門(1.8) 中村岩三郎(3.6) 福田栄七(4.36) 浅野弥吉(1.8) 佐伯三藏(3.6) 佐伯千代藏(1.8)
	福川町	岩崎近之進(1.8) 尾崎耕三(1.8) 河原猛次郎(3.6) 片山百合吉(1.8) 片山大作(1.8) 川崎菊太郎(1.8) 片山賢三郎(1.8) 片岡梅之進(1.8) 片山貞輔(1.8) 横山新之丞(2.7) 竹中直三郎(1.8) 多田亦左衛門(1.8) 竹内虎雄(1.8) 中村鉄五郎(1.8) 中村太郎一(1.8) 松本清次郎(1.8) 福田宇右衛門(4.7) 藤村音吉(4.36) 福井虎之丞(1.8) 藤村金太郎(1.8) 福嶋孝之進(1.8) 藤井秀次(1.8) 小池七郎(1.8) 江見次郎吉(1.8) 秋本喜一郎(3.6) 浅田真一(1.8) 浅田友之丞(1.8) 佐伯梅藏(1.8) 佐々木虎熊(1.8) 嶋原真太郎(1.8) 森光太兵衛(1.8)

夜市村		原田武三郎(1.8) 原田亀之進(1.8) 神原雄一郎(1.8) 高木勝之助(1.8) 中村治郎(1.8) 国沢惣三郎(1.8) 山本十太郎(2.7) 山本勝五郎(1.8) 松野治郎作(1.8) 松田松之輔(1.8) 清永正太郎(1.8) 重安実(1.8) 清水甚兵衛(1.8) 善甫虎三郎(1.8)
	夜市町	原田東作(4.7) 岡村初衛(2.7)
戸田村		小川勝左衛門(3.35)
富海村		友安吉之進(4.7)
野嶋		西山森之丞(1.8) 片山栄(1.8)
記載無し		正木新蔵(3.35)